

教育方針	Ever Shining 一夢に向かって心と体を動かし、 みんなを輝かせる人であれー	重点目標	I 6年間を見通した一貫教育を進め、高い進路実現を目指します II 幅広い年齢集団での活動を生かして、豊かな人間性を育てます III コミュニケーション能力を高め、生きる力を育みます
------	--	------	---

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方針
I 生徒一人ひとりの進路希望を実現します。	(1) 大学の合格率	国公立大学及び難関私立大学の進学率70%以上を目指します。 A: 100~70%、B: 70~60%、C: 60~55%、 D: 55~50%、E: 50%未満	A	3/23時点で国公立大学者進学数が102名、難関私立(早慶、東京理科、マーチ、関関同立)の進学者数は9名の計111名となり、進学率は約77.6%であった。	多様化する入試に対応するため、ICTを活用した学習指導・進路指導の個別最適化を進めていきたい。
	(2) 難関国公立大学の合格率	東京大学・京都大学等の難関国公立大学及び医学部医学科の合格率15%以上を目指します。 A: 15%以上、B: 14~10%、C: 9~7%、 D: 6~5%、E: 5%未満	A	3/23時点で東大1、北大1、東京科学大1、名大1、阪大4、神大6、九大3、医学部医学科5の合計22名の合格者がおり、6年生総数に対する割合は15.4%である。	早期から高い目標をもって学習に取り組む生徒を増やすために、前期から生徒の能力や進路意識を高める取組に力を入れていきたい。
	(3) 進路意識の向上	「進路意識が向上したか」という生徒・保護者アンケートにおいて肯定的な評価が100%になることを目指します。 A: 100~80%、B: 79~70%、C: 69~60%、 D: 59~50%、E: 50%未満	B B	生徒の77%が肯定的な評価をしている。 保護者の70%が肯定的な評価をしている。	6年間を見通したキャリア教育の更なる充実を目指し、大学訪問研修や出張講義、講演会などの機会をより効果的なものに改善していきたい。また、自ら進路を意識した学習に取り組む態度等を育成していきたい。
II 6年間を見通したキャリア教育により高志を育てます。	(1) 質の高い授業の実践	「質の高い授業が提供されているか」という生徒・保護者アンケートで肯定的な評価が100%になることを目指します。 A: 100~80%、B: 79~70%、C: 69~60%、 D: 59~50%、E: 50%未満	生徒B 保護者B	生徒の76.7%が肯定的な評価をしている 保護者の78.2%が肯定的な評価をしている	ICT機器や各種学習系ソフトを活用した授業手法に関する研究と実践をさらに深めるとともに、学習の効率化を図り、自学自習の習慣を定着させる。また、新しい入試制度に対応できる授業の構築を目指したい。
	(2) 生徒のスキルアップを促す課題研究	「質の高い課題研究活動が行われているか」という生徒・保護者アンケートで、肯定的な評価が100%になることを目指します。 A: 100~80%、B: 79~70%、C: 69~60%、 D: 59~50%、E: 50%未満	生徒B 保護者C	生徒の74.2%が肯定的な評価をしている 保護者の65.9%が肯定的な評価をしている	「総合的な探究(学習)の時間」のカリキュラム内容を更に充実させ、課題研究に必要な能力やスキルを育成する学習計画を立案し、課題解決能力を向上させていきたい。また、成果を保護者や地域などへ積極的に発信していきたい。
	(3) 実用英語技能検定(英検)の取組	英検取得の目標を設定し推進します。 ① 前期課程終了時で、3級取得100% A: 100~95%、B: 94~90%、C: 89~80%、 D: 79~70%、E: 70%未満 ② 準2級取得75%以上 A: 75%以上、B: 74~70%、C: 69~60%、 D: 59~50%、E: 50%未満 ③ 2~1級取得40%以上 A: 40%以上、B: 39~35%、C: 34~30%、 D: 29~25%、E: 25%未満	D A A	前期課程修了時点で、3級取得者(一次合格者3年生対象)は78.9%となった。 準2級取得者(一次合格者5年生対象)81.5%となった。 2~1級取得者(一次合格者5年生対象)47.2%となった。	①については昨年度より10ポイントも落ちた。スピーキング活動も大切だが、前期課程では、1次試験で求められるリーディング、リスニング、ライティングの活動を徹底して行い、基礎学力の定着を図る必要がある。準2級以上の取得率については、②は昨年度よりも9ポイント、③は4ポイント増加した。後期課程では、2次試験の対策ともなるスピーキング活動を今後も充実させていきたい。

※ 評価は5段階(A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)とする。

令和6年度 自己評価表 (2枚目)

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策		
Ⅲ 多 間 く 性 や 活 動 の 場 を 育 て ま す。 豊 か な 人	(1) 学校行事の満足度	「学校行事に対して満足しているか」というアンケートに対して、肯定的な評価が100%になることを目指します。 A: 100~90%、B: 89~80%、C: 79~70%、 D: 69~60%、E: 60%未満	生徒 B	生徒の87%が肯定的な評価をしている。	今年度は、感染症対応に加え、熱中症対応にも配慮しながら学校行事を進めてきた。今後も気象状況などを考慮しながら、安心・安全に学校行事を進めていきたい。		
			保護者 B	保護者の88%が肯定的な評価をしている。			
	(2) 部活動の満足度	「部活動に対して満足しているか」というアンケートに対して、肯定的な評価が100%になることを目指します。 A: 100~90%、B: 89~80%、C: 79~70%、 D: 69~60%、E: 60%未満	生徒 C	生徒の79%が肯定的な評価をしている。		全国大会レベルで活躍する生徒の増加など実績が上がってきた。今後は、部活動改革が進む中で生徒との情報共有・連携を密にとり、充実した部活動となるよう留意していきたい。	
			保護者 C	保護者の79%が肯定的な評価をしている。			
	(3) 図書館活動の充実	図書館の年間貸出冊数を一人当たり、前期課程12冊以上、後期課程7冊以上とする。 前期 A: 12冊以上、B: 11~10冊、C: 9~8冊、 D: 7~6冊、E: 5冊以下 後期 A: 7冊以上、B: 6冊、C: 5冊、 D: 4冊、E: 3冊以下	前期 D	1月31日現在、前期課程は一人当たり6.4冊であった。後期課程は一人当たり4.1冊であった。			貸出冊数は昨年と比べると微増であるが、例年と比べると少ないことは否めない。読書活動の啓発に努め、読書をより身近に感じる指導や『らいぶらりNEWS』の配布などに工夫をし、魅力ある図書館にしていきたい。
			後期 D				
Ⅳ 基 本 的 な 生 活 習 慣 を 確 立 し、 自 己	(1) 挨拶と清楚な身だしなみの習慣化	「挨拶や清楚な身だしなみが習慣化しているか」というアンケートに対して、肯定的な評価が100%になることを目指します。 A: 100~90%、B: 89~80%、C: 79~70%、 D: 69~60%、E: 60%未満	生徒 A	生徒の91.0%が肯定的な評価をしている。	良好な状態が続いており、高評価も得ている分野である。引き続き、自らあいさつが出来る生徒の育成を目指して指導を充実させていきたい。また、校外においても良好な態度が取れるよう引き続き指導していきたい。		
			保護者 A	保護者の90.2%が肯定的な評価をしている。			
	(2) 社会規範の遵守	「社会のルールをしっかりと守っているか」というアンケートに対して、肯定的な評価が100%になることを目指します。 A: 100~90%、B: 89~80%、C: 79~70%、 D: 69~60%、E: 60%未満	生徒 A	生徒の92.5%が肯定的な評価をしている。		良好な状態が続いており、高評価も得ている分野である。引き続き、指導を行っていきたい。特に、交通安全については、道交法改正により自転車の罰則規定が強化されたので、指導を徹底していきたい。	
			保護者 A	保護者の90.0%が肯定的な評価をしている。			
	(3) 温かい思いやりの心	「他者に対して思いやりと持って接しているか」というアンケートに対して、肯定的な評価が100%になることを目指します。 A: 100~90%、B: 89~80%、C: 79~70%、 D: 69~60%、E: 60%未満	生徒 B	生徒の89.0%が肯定的な評価をしている。			良好な評価を得ているが、よりよい人間関係を築くことができる力と態度を育てることに努めていきたい。そのために、生徒一人一人を見守りながら、必要な指導やアドバイスを適切に行っていきたい。
			保護者 B	保護者の82.9%が肯定的な評価をしている。			
Ⅴ 改 業 善 務	職場環境満足度	働きやすい職場環境に向けた改善が進んでいると感じる教職員が100%になることを目指す。 A: 100~90%、B: 89~80%、C: 79~70%、 D: 69~60%、E: 60%未満	E	教職員の51%が肯定的な評価をしている。また、「どちらでもない」の回答が24%となっている。	昨年度に比べ、肯定的回答が7ポイント上昇した。教職員の意見を取り入れながら、今後さらなる職場環境の改善に取り組みたい。		

※ 評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。